

とうと いのち

健康な血液が支える貴い生命 患者さんの生命を守るのは、 献血から生まれる愛のおくりもの

献血にご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。あなたの善意の献血が患者さんを救います。

現在、全国で1年間に約500万人（平成18年度延べ人数：4,983,009人）の方から献血へのご協力をいただき、その血液は輸血を必要とする医療を支えています。人間の生命を維持するために欠くことのできない血液は、まだ人工的に造ることができません。さらに血液は生きた細胞を含んでおり、長い期間にわたって保存することもできません。輸血に必要な血液を常に確保しておくためには、絶えず誰かの献血が必要となります。

また近年、輸血用血液製剤などの安全性に対する社会的な要望も高まっています。日本赤十字社は、安全性の高い血液を安定的に病院に供給ができるよう努めています。

このパンフレットをご覧になって、より多くみなさまに献血の現状と献血の必要性をご理解いただき、これからも献血へのご協力をお願いいたします。



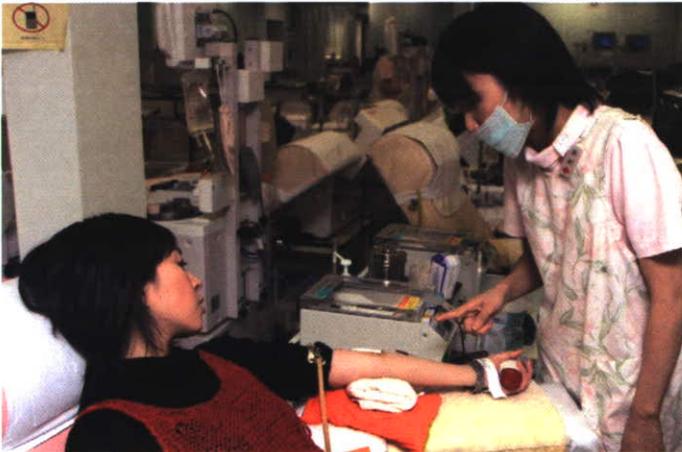
目次

献血血液の流れ	2
血液と輸血について	(血液の知識).....	4
	(輸血の知識).....	5
血液の使われ方について	(血液製剤の種類).....	6
	(血液の供給・使用状況).....	7
血液事業の運営について	8
血液の安全確保対策について	10
献血について	(献血現場の流れ).....	12
	(献血の種類・基準).....	14
	(献血の問診).....	15
	(お知らせ・献血できなかった方へ)・	16
	(副作用について).....	17
献血血液の検査について	(感染症等の検査).....	18
	(ウインドウ期について).....	19
献血が必要な理由	(血液不足時期について).....	20
	(若い方の献血が必要です).....	21
輸血に携わる人たちのメッセージ	22
より詳しく知りたい方のために	資料

みなさまの献血が高度医療を支えています

献血血液が病院に届くまで

献血



オーイ!



日本赤十字社 血液センター

検査



製剤



供給

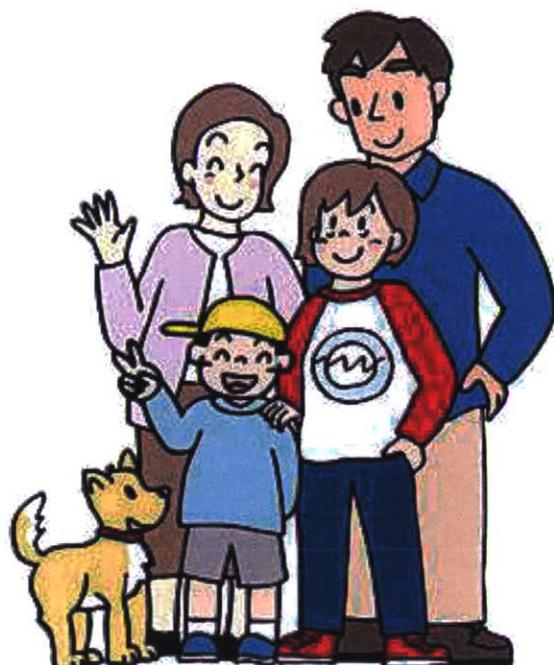


献血へのご協力に、心より感謝いたします。

血液は栄養や酸素の運搬など、人間の生命を維持するために欠くことのできないものです。血液の機能を完全に代替できる人工血液はまだ存在しておりません。今日の医療において輸血は欠かすことのできない治療法となっており、みなさまの献血がなければ、現代医療は成り立ちません。

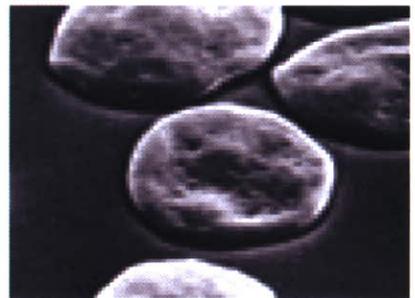
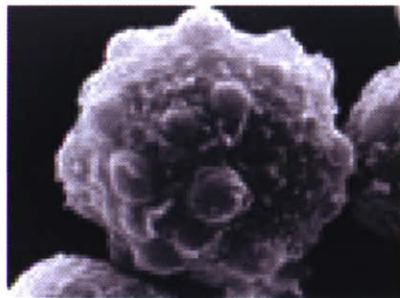
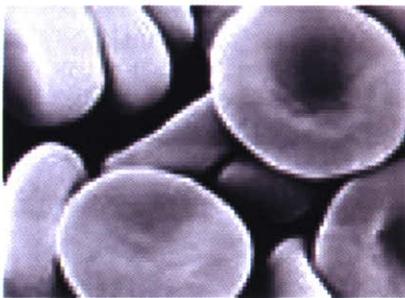
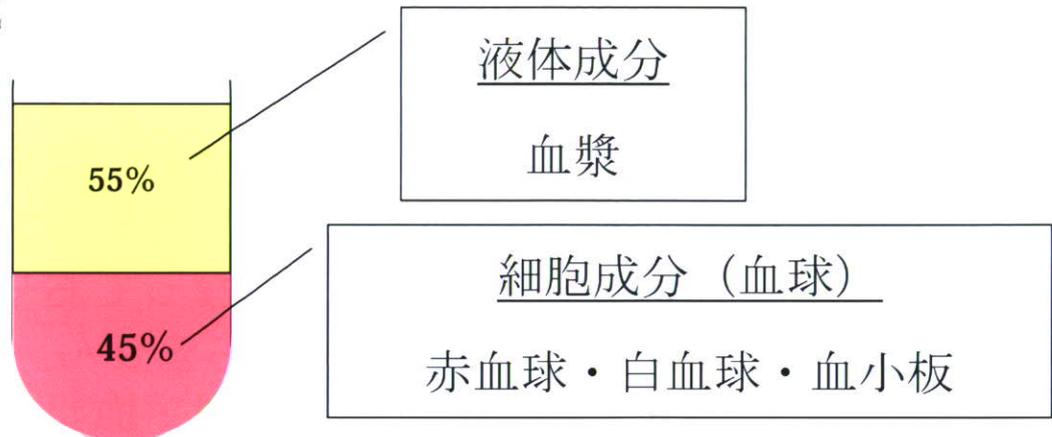
献血していただきました血液は、赤血球・血漿・血小板などの輸血用血液製剤として使われるほか、血漿中の特定のタンパク質を抽出・精製した血友病治療薬や免疫グロブリン製剤、アルブミン製剤のような血漿分画製剤の原料としても使用されます。

病院



血液と輸血の知識

■血液の組成

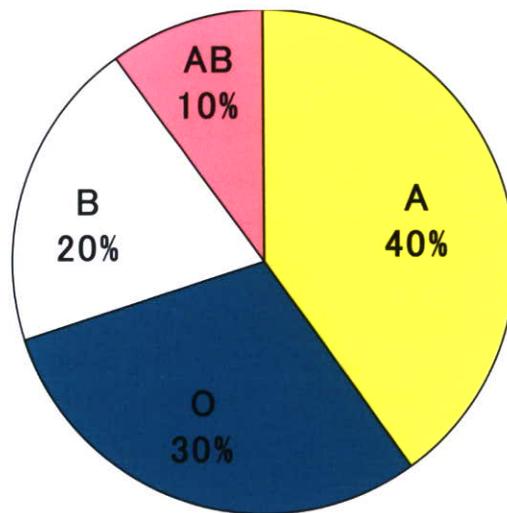


赤血球(約 $8\mu\text{m}$) 白血球(約 $6\sim 14\mu\text{m}$) 血小板(約 $2\sim 3\mu\text{m}$)

- 赤血球…中心部が凹んだ円盤状の血球です。血色素（ヘモグロビン）を含み、肺で酸素を取り込み、体のすみずみへ運搬します。
- 白血球…細菌その他の異物が体に入ってきた時にそれを捕らえたり、免疫機構を維持するなど、体の防御機能を担っています。
- 血小板…巨核球という血小板のもとになる細胞がちぎれてできた血球です。血管の傷を埋めて、出血を止める働きがあります。
- 血漿…体の組織でできた炭酸ガスを肺へ、老廃物を腎臓へ運んで排出したり、栄養分を体のすみずみへ運搬したりします。

■血液型と輸血について

私達の血液は、赤血球、白血球、血小板のそれぞれについて血液型が知られています。普通は赤血球の型を血液型と呼んでおり、ABO、Rh、P、MNといった分類で、約300種類の型があることが分かっています。血液型の割合は国によってそれぞれ異なりますが、日本人のABO血液型の割合は下のグラフのようになっています。そしてA、O、B、ABそれぞれについてRh(マイナス)の人が200人に1人の割合でいますので、AB型でRh(マイナス)の人は2000人に1人ということになります。特に免疫反応を起こしやすいABOとRhの型については、輸血の際に副作用(溶血)をおこさないような組み合わせにする必要があります。



【図】日本人のABO血液型の割合

血小板や白血球にも様々な血液型がありますが、主なものをHLA型と呼んでいます。白血病などで血小板輸血を繰り返すと、HLAに対する抗体ができて輸血の効き目が悪くなる場合があります。このような場合は抗体と反応しないHLA型の血小板輸血をしなければなりません。血液センターではこのような場合に備えて、献血者にHLA型の登録と必要な時の献血協力をお願いし、HLA適合血小板の供給に努めています。さらに、HLA型は骨髄移植や腎臓移植などの臓器移植を成功させるためにも重要なものです。しかしながら、HLA型は非常に変化に富んでいて、親子でも一致しませんので、型のあったドナーを見つけるのは大変困難なのです。そのため、骨髄バンクでは30万人のドナー登録をお願いしています。

血液製剤の種類

血液製剤には「輸血用血液製剤」と「血漿分画製剤」があり、それぞれ表のような製剤があります。

■輸血用血液製剤(詳細は資料 p〇〇)

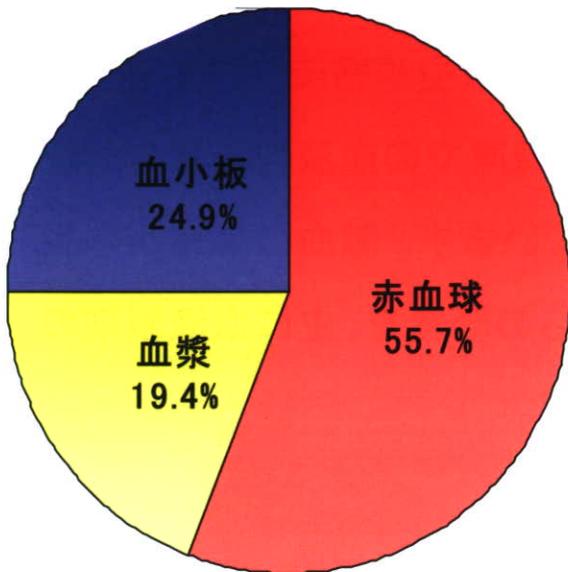
赤血球製剤		保存温度：2～6℃ 有効期間：採血後 21 日間 出血及び赤血球が不足している場合に使用されます。
血漿製剤		保存温度：-20℃以下 有効期間：採血後 1 年間 複数の血液凝固因子の欠乏による出血及びその傾向のある場合に使用されます。
血小板製剤		保存温度：20～24℃ 有効期間：採血日を含めて 4 日間 要振とう保存 血小板数の減少等による出血ないしその傾向のある場合に使用されます。
全血製剤		保存温度：2～6℃ 有効期間：採血後 21 日間 大量出血などで赤血球と血漿が同時に不足した場合に使用されます。

■血漿分画製剤(詳細は資料 p〇〇)

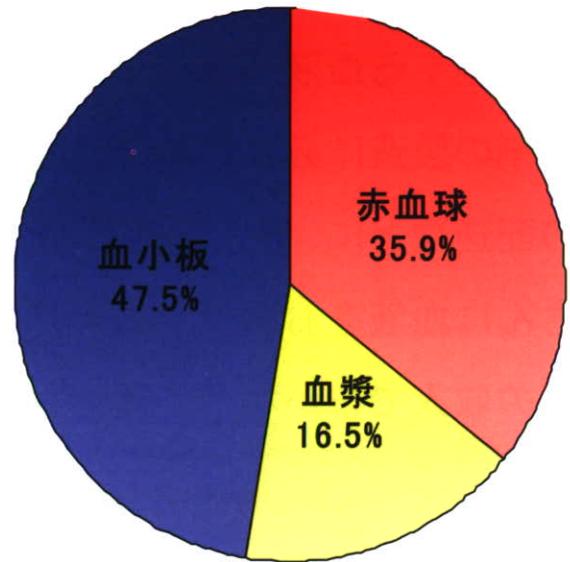
血液凝固第Ⅷ因子製剤		保存温度：10℃以下 禁凍結 有効期間：2 年間 第Ⅷ因子欠乏患者の因子を補い、出血を止めたり予防するために使用されます。
アルブミン製剤		保存温度：室温 禁凍結 有効期間：2 年間 低アルブミン血症や出血性ショック等の際に使用されます。
免疫グロブリン製剤		保存温度：10℃以下 禁凍結 有効期間：2 年間 感染症の治療や、B型肝炎発症予防に使用されます。

輸血用血液の供給状況と使用状況

■輸血用血液製剤の種類別供給状況(平成18年度)

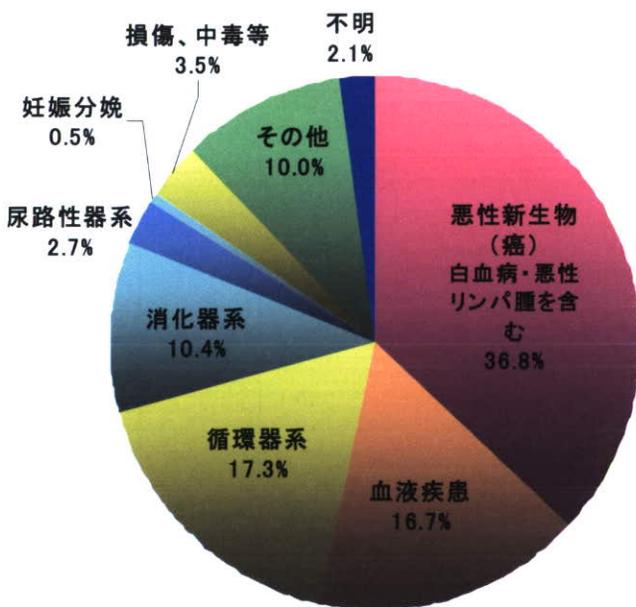


＜血液製剤のバッグ数比率＞



＜全て 200mL 献血に換算した比率＞

■疾病別輸血状況



輸血用血液製剤の病院への供給内訳は上のグラフのようになっています。左上が実際の血液製剤のバッグ数の比率で、右上は 200mL 献血由来量を 1 単位に換算した比率です。バッグ数では赤血球製剤が、換算単位では血小板製剤が多く使用されていることがわかります。

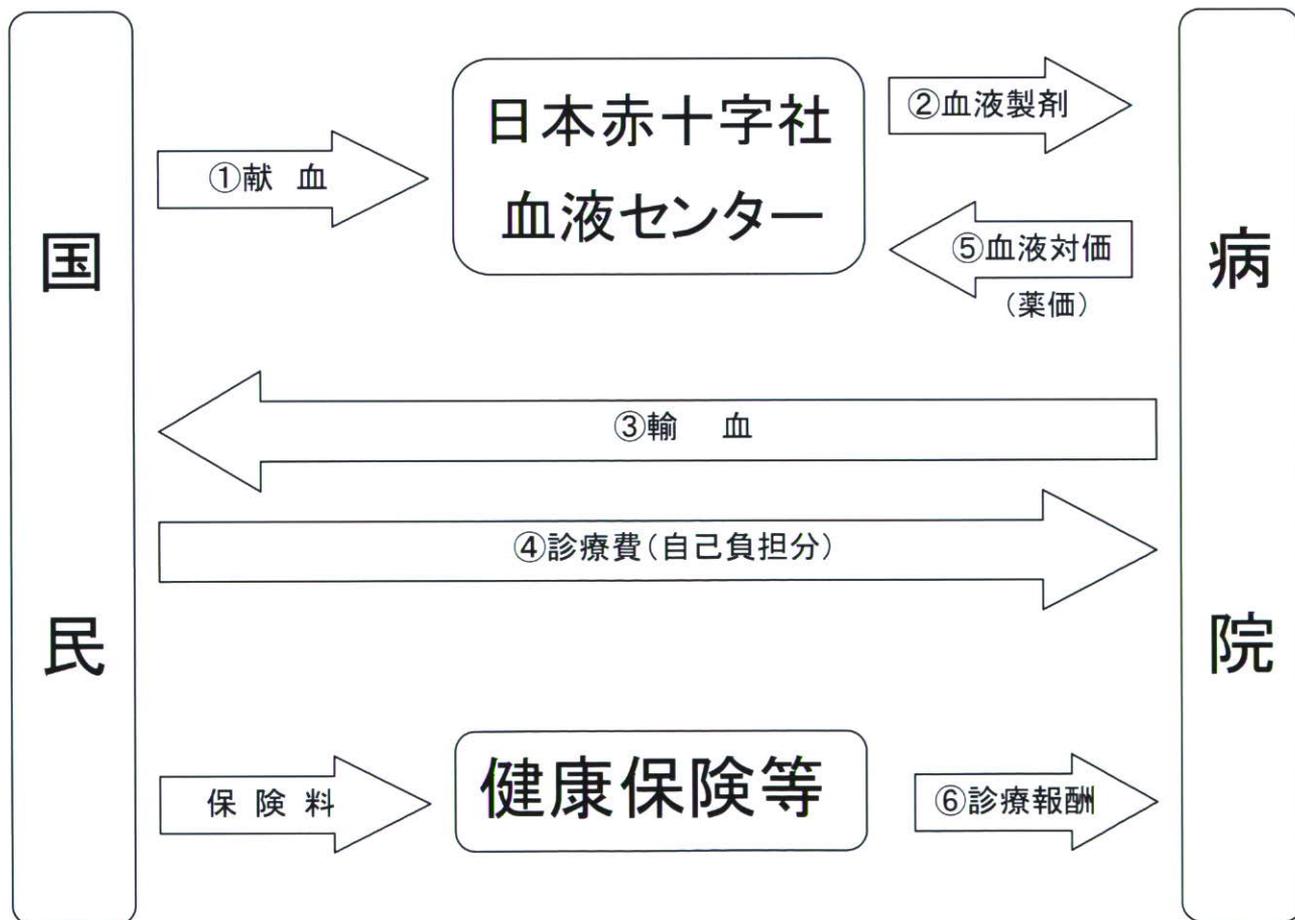
全国では年間約 100 万人の患者さんが輸血を受けていると推計されています。その輸血対象疾患別使用状況は左下のグラフのとおりです。最も使用割合が多いのは「悪性新生物(癌)の治療」であることがわかります。

(平成 18 年東京都：東京都福祉保険局調べ) 一部改変

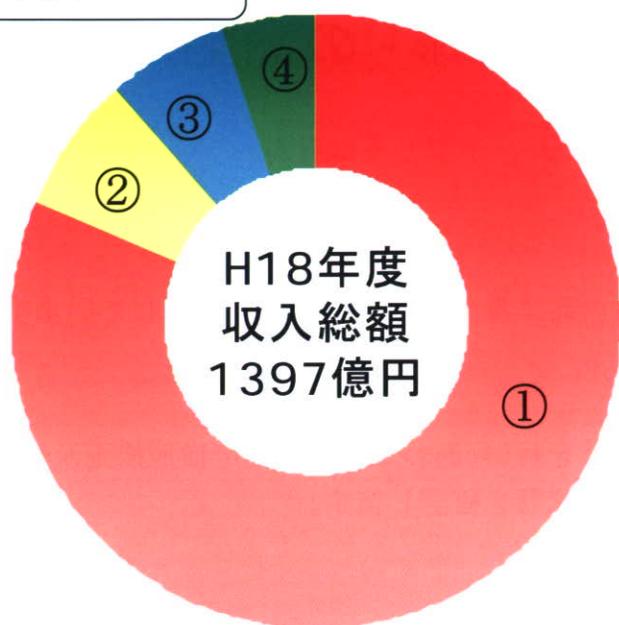
血液事業の運営費用は医療保険でまかなわれています

血液事業の運営について

献血していただきました血液が血液製剤となって病院へ届けられるまでには、献血施設（献血ルーム・献血バスなど）の設備や採血に使用する血液バッグなどの材料費、血液型や感染症の検査、血液製剤の製造に必要な機器、冷蔵庫や冷凍庫での血液の保管や病院への配送などに、多くの経費がかかっています。献血の募集から患者さんに血液をお届けするまでのこれらの経費を、主に血液製剤の薬価の収入でまかなって運営しています。



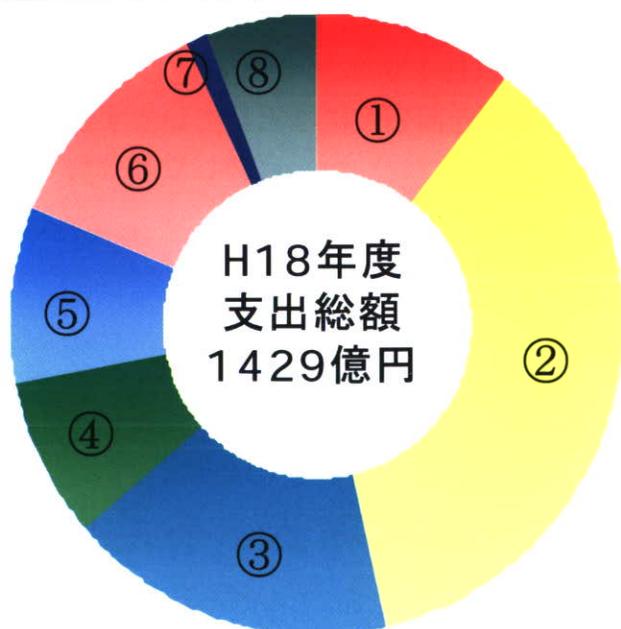
収入について



- ①輸血用血液製剤供給収入 (81.5%)
- ②血漿分画製剤供給収入 (7.1%)
- ③国内製薬企業への原料血漿送付収入 (6.2%)
- ④その他の収入 (5.2%)

収入・支出それぞれの項目
については資料 p00

支出について



- ①献血の広報活動・献血者募集のための費用 (10.6%)
- ②採血のための費用 (35.9%) (献血ルームの費用含)
- ③血液検査のための費用 (17.3%)
- ④輸血用血液製剤や血漿分画製剤製造の費用 (8.2%)
- ⑤血液供給のための費用 (9.2%)
- ⑥血液センター等の管理運営のための費用 (12.0%)
- ⑦調査・研究のための費用 (1.0%)
- ⑧その他の費用 (5.8%)

血液の安全性確保対策

◎日本赤十字社では輸血用血液製剤および血漿分画製剤に対して、現時点で可能な限りの安全対策を実施し、病院へお届けしています。(詳しくは資料 p0)

① 本人確認

安全で責任ある献血をお願いするため、献血受付時に身分証等の提示をお願いしています。

② 検診

問診票に記入いただいた内容について医師が問診を行い、あわせて献血前に血液検査及び必要な場合には心電図検査を行って献血される方の健康状態を確認します。

③ 血清学的検査

血液センターにおいて血液型検査、各種ウイルスの抗原・抗体検査、梅毒検査等を実施しています。

④ 核酸増幅検査(NAT)

B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、エイズウイルス(HIV)について実施しています。この検査ではウイルスの核酸を約1億倍に増幅してウイルスを高感度に検出しています。

(詳しくは資料 p0)

⑤ その他

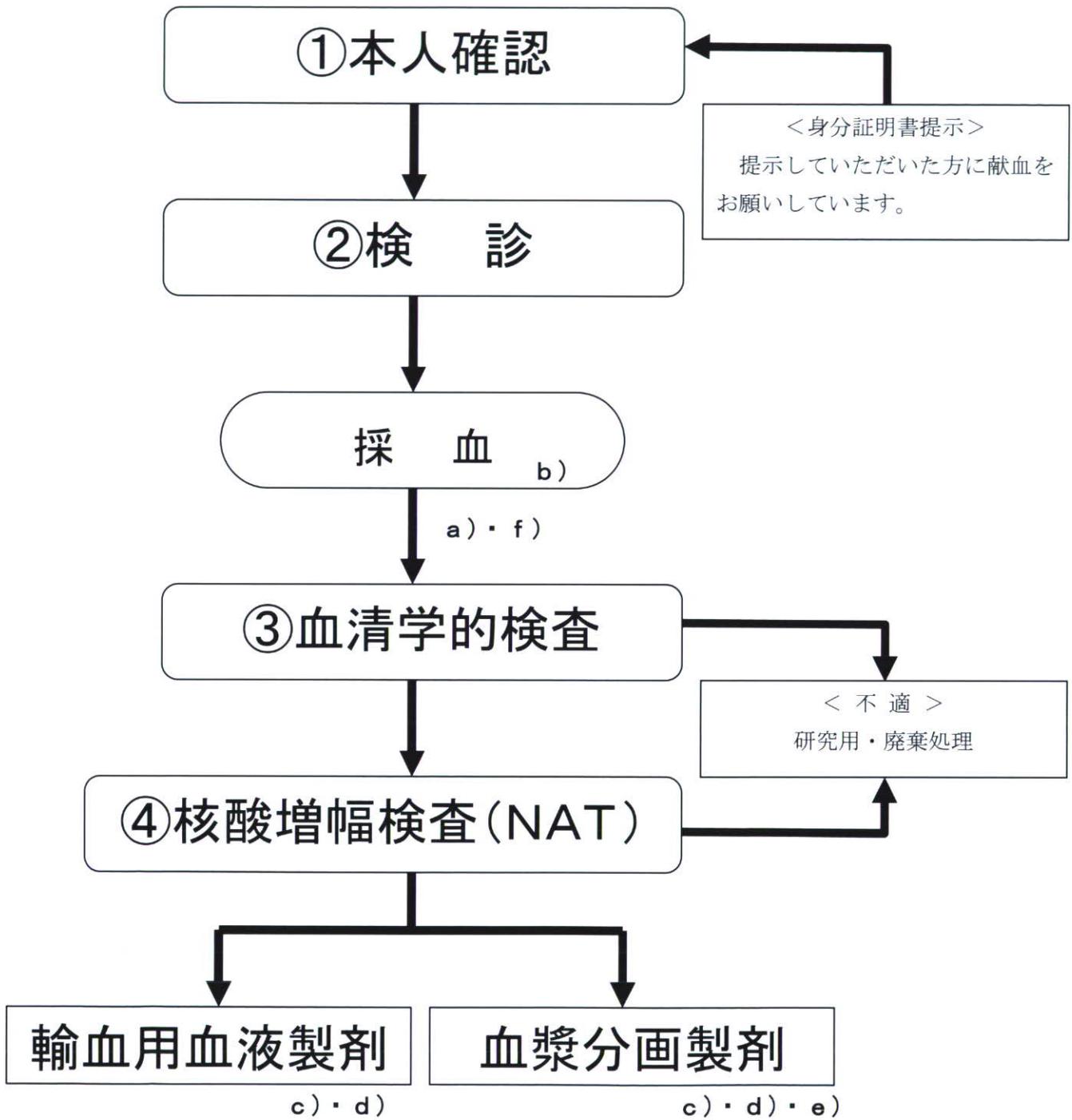
a) 献血者自己申告制度

b) 初流血除去 c) 白血球除去

d) 血漿貯留保管(6ヵ月) e) ウイルス除去、不活化

f) 検体保管(11年間)

※血漿分画製剤について



受付から採血後の休憩まで。献血の流れはこのようにな

献血の手順

1. 献血受付

献血前にお渡しする「お願い！」を熟読いただき、了解された上で献血申込書の記入をしていただきます。初めて献血される場合は本人確認ができる身分証を提示してください。

献血カードをお持ちの場合は受付へご提示ください。



2. 問診票記入

献血される方の健康状態を確認し、患者さんの安全な輸血のため、問診票(p13 参照)に記入いただきます。

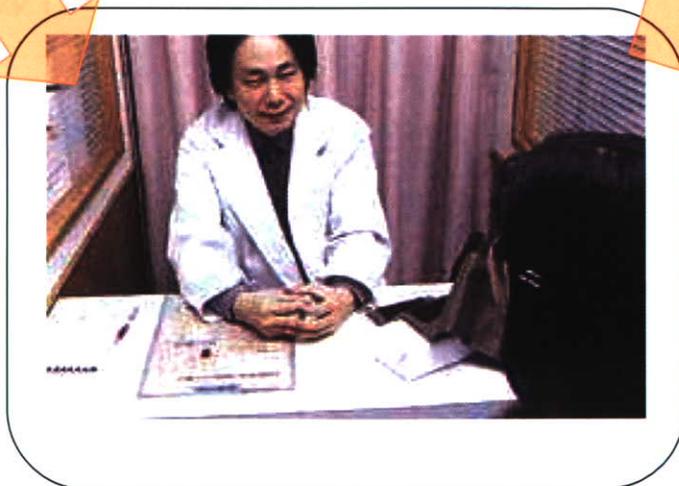
※献血ルーム等の固定施設では問診票記入にタッチパネル方式を導入しています。



3. 問診

記入いただいた問診票に基づいた問診と血圧測定を行います。問診内容についてのプライバシーは厳守されますので、正確にお答え下さい。『責任ある献血』とはできるだけ正確にお答えいただくことです。血液センターの医師が採血の可否を判断します。

(資料 p〇〇参照)



っています



4. 献血前検査

少量の採血をして、血液型の事前判定と、貧血の有無を検査します。

※採血時には細菌混入を防ぐため厳重に消毒を行います。今までにヨードによりアレルギー症状が出たことがある方には消毒薬を変更します。

5. 採血

採血ベッドへ横になって採血をします。針を刺した痛みは直ぐにやわらぎますが、もしいつまでも痛みが続いたり、強い痛みがある場合にはお知らせください。

採血にかかる時間は全血献血で 10 分前後、成分献血で 40～90 分です。



6. 休憩・献血カード受取り

採血後は十分に水分をとって 15 分～30 分程度は休憩してください。

お渡しする献血カードは次回の献血時にもお持ちください。

「お願い！」の献血後の注意事項をよくお読み下さい。

献血の種類・基準

■ 献血の種類

成分献血

成分採血装置を使用して、血小板や血漿成分だけを採血し、赤血球は体内に戻す方法です。

全血献血

400mL 献血と 200mL 献血とがあり、血液の全ての成分をそのまま採血する方法です。

輸血の副作用や感染症のリスクは、血液の提供者の数が多いほど増加します。400mL 献血や成分献血はそれらのリスクを小さくするのに役立ちます。

献血してくださる方の安全と健康を守るために、以下のような献血基準や献血間隔が国によって定められています。

■ 献血基準

	成分献血		全血献血	
	血漿成分献血	血小板成分献血	200mL献血	400mL献血
一回献血量	300～600mL (体重別)	400mL以下	200mL	400mL
年齢	18～69歳*	18～54歳	16～69歳*	18～69歳*
体重	男性45kg以上・女性40kg以上			男女とも50kg以上
最高血圧	90mmHg以上			
血液比重等	血液比重1.052以上 又は、 ヘモグロビン量 12.0g/dL以上 (赤血球指数が 標準域にある女性 は11.5g/dL以上)	血液比重1.052以上 又は、 ヘモグロビン量 12.0g/dL以上	血液比重1.052以上 又は、 ヘモグロビン量 12.0g/dL以上**	血液比重1.053以上 又は、 ヘモグロビン量 12.5g/dL以上**
年間献血回数	血小板成分献血1回を2回分に換算して 血漿成分献血と合計で24回以内		男性6回以内 女性4回以内	男性3回以内 女性2回以内
年間総献血量	200mL献血と400mL献血を合わせて 男性1,200mL以内 女性 800mL以内			

■ 次回献血間隔 (男女ともそれぞれの週が経過した同じ曜日から献血できます)

今回の献血	今回の献血	血小板献血	血漿献血	400mL 献血	200mL 献血
血小板献血		男女とも 2 週間後		男女とも 8 週間後	男女とも 4 週間後
血漿献血					
400mL 献血				男性は 12 週間後	
200mL 献血				女性は 16 週間後	

献血時の問診

問診は、献血される方の安全と健康を守るために、そして血液を必要としている患者さんにウイルスなどの感染を起こさないような安全な血液を献血していただくために実施しています。問診票に記入していただいた内容を確認し、追加の質問をさせていただくことがあります。

プライバシーは厳守されますので、ご自身のため、患者さんのために問診への正しい申告をお願いします。

問診票(改訂案)

この問診票は、献血される方と輸血を受けられる方の安全を守るためにうかがうものです。

エイズ検査目的の献血は、血液を必要とする患者さんの安全のためにお断りしています。

(注意) 献血される方は、「はい/いいえ」欄の該当する方に■印をご記入願います。

質問事項		質問事項		
1	今日の体調は良好ですか。	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	14 海外から帰国(入国)して4週間以内ですか。	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
2	3日以内に出血を伴う歯科治療(抜歯等)を受けましたか。	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	15 1年以内にヨーロッパ・米国・カナダ以外の外国に旅行しましたか。(国名)	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
3	3日以内に薬を飲んだり、注射をしましたか。	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	16 4年以内にヨーロッパ・米国・カナダ以外の外国に1年以上滞在しましたか。(国名)	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
4	次の育毛薬/前立腺肥大症治療薬を使用しましたことがありますか。 プロペシア・プロスカール(1ヵ月以内)、アボダート(6ヵ月以内)	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	17 英国に1980(昭和55)年-1996(平成8)年の間に1泊以上滞在しましたか。	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
5	次の薬を使用しましたことがありますか。 チガソン(乾せん治療薬)、ラエンネック・メルスモン(プラセンタ注射薬)	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	18 ヨーロッパ(英国も含む)に1980年以降通算6ヵ月以上滞在しましたか。(国名)	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
6	24時間以内にインフルエンザの予防接種を受けましたか。	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	19 6ヵ月以内に次のいずれかに該当することがありましたか。 (該当する項目を選ぶ必要はありません) ①不特定または多数の異性と性的接触をもった。 ②男性同士で性的接触をもった。 ③麻薬、覚せい剤を使用した。 ④エイズ検査(HIV検査)の結果が陽性だった(6ヵ月以前も含む) ⑤①-④に該当する人と性的接触を持った。	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
7	1年以内にインフルエンザ以外の予防接種を受けましたか。	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
8	次の病気や症状がありましたか。 3週間以内 - はしか、風疹、おたふくかぜ、帯状疱疹、水ぼうそう 1ヵ月以内 - 発熱を伴う下痢 6ヵ月以内 - 伝染性単核球症、リンゴ病	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	20 今までに輸血(自己血を除く)や臓器の移植を受けたことがありますか。	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
9	2ヵ月以内に肝炎やリンゴ病になった人が家族や職場等にいますか。	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	21 今までに次のいずれかに該当することがあります。か。 ①クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)または類縁疾患と診断された。 ②血縁者にCJDまたは類縁疾患と診断された人がいる。 ③人由来成長ホルモンの注射を受けた。 ④角膜移植を受けた。 ⑤1997年3月以前に硬膜移植を伴う脳神経外科手術を受けた。	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
10	6ヵ月以内に次のいずれかに該当することがありましたか。 ①ピアスの穴をあけた。またはいれずみ(刺青)をした。 ②使用後の注射針を誤って自分に刺した。 ③肝炎ウイルスの持続感染者(キャリア)と性的接触があった。	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
11	1年以内に次の病気等にかかったか、あるいは現在治療中ですか。 外傷、手術、肝臓病、腎臓病、糖尿病、結核、性病、 ぜんそく、アレルギー疾患、その他()	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	22 現在妊娠中または生後1年以内の赤ちゃんに授乳中ですか。 6ヵ月以内に出産、流産をしましたか。	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
12	今までに次の病気等にかかったか、あるいは現在治療中ですか。 B型肝炎、がん(悪性腫瘍)、血液疾患、心臓病、脳卒中、てんかん	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
13	今までに次の病気にかかったことがありますか。 C型肝炎、梅毒、マラリア、シャーガス病、 パペシア症、トリパノソーマ症、リーシュマニア症	はい/いいえ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	回答訂正番号 _____ 番	

私は以上の質問を理解し、正しく答えました。
また、別紙「お願い!」の文章を読んで了解し、献血します。

署名

<以下に該当する方については献血をしないでください>

- (1) 海外から帰国(入国)して4週間以内の方
- (2) 昭和55年(1980年)以降、ヨーロッパに一定期間滞在(居住)された方(詳細地図、期間は資料p〇〇)
- (3) 輸血や臓器の移植を受けたことがある方
- (4) エイズ(HIV)検査が目的の方
- (5) この6ヶ月間に、不特定または多数の異性と性的接触があった方
- (6) 男性の方で、この6ヶ月間に男性との性的接触があった方
- (7) この6ヶ月間に、麻薬・覚せい剤を注射した方

ウインドウ期については資料
p〇〇を参照

上記以外にも、過去にかかった病気や服用した薬、海外渡航先と期間、家族の伝染性の病気、今日の体調等について医師が判断し、献血をお断りしたり延期していただくことがあります。(詳細は資料〇)

献血後のお知らせ/献血ができなかった方へ

■希望される方に以下の内容の検査結果を献血のたびごとにお知らせしています。

(献血後 1 ヶ月以内に親展で届きます)

① 通常お知らせしている項目

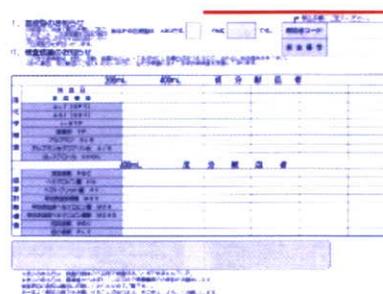
- 血液型検査
- 生化学検査 (項目は別添資料 p○○)
- 血球計数検査 (項目は別添資料 p○○)

※血球計数検査は 400mL 献血と成分献血の場合にお知らせしています。

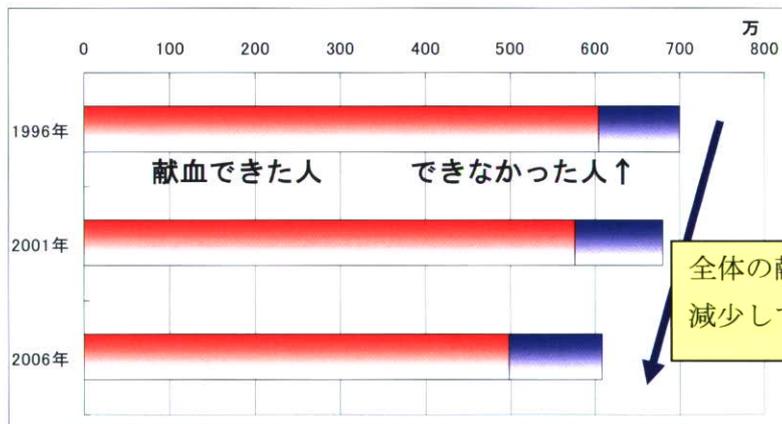
② 検査で異常を認めた場合にのみお知らせする項目

- B型・C型肝炎ウイルス検査
- 梅毒検査
- ヒトTリンパ球向性ウイルス-1型 (HTLV-1) 検査

〈検査結果通知ハガキ〉

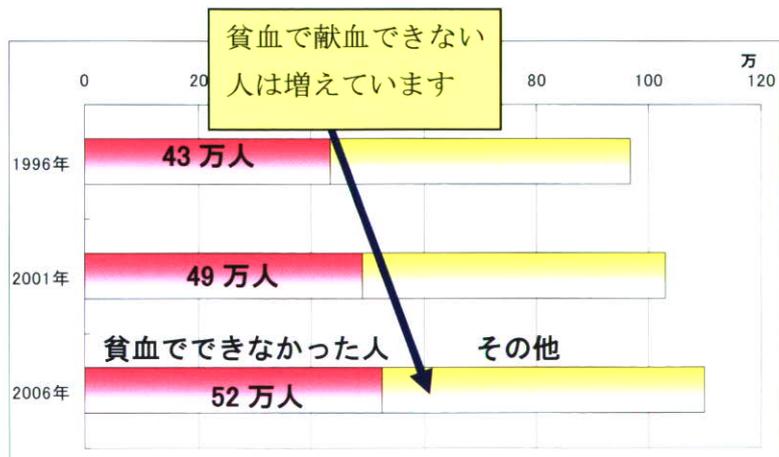


■献血ができない理由は様々ありますが、最近では貧血のために献血できない人も多くなっています。



全体の献血者数は減少しています

1996年には献血に来てくださった方の13.8%が献血で着まらなかったが、2006年には18.1%に増加しました。献血ができなかった理由は、海外渡航歴・居住歴や服薬中などもありますが、比重不足(貧血)のために献血ができない人が増加しています。



貧血で献血できない人は増えています

1996年は43万人でしたが、2006年には52万人となり、特に女性の献血希望者に占める割合は62.6%にもなっています。

それらの方々の多くは鉄欠乏症貧血と思われ、食事の改善や鉄の補充が必要です。

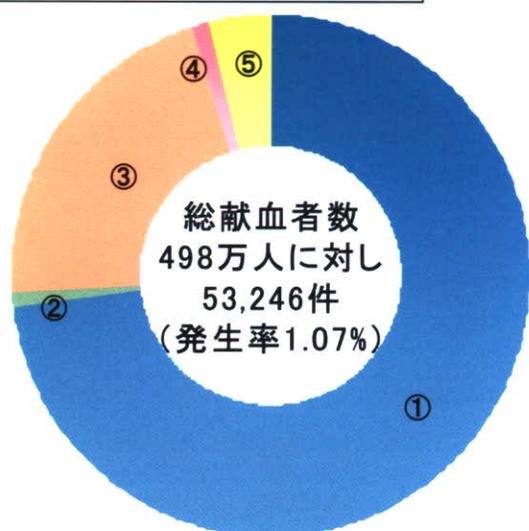
中等度以上の貧血の方は受診されることをお勧めします。

※貧血のために献血できなかった人数

献血の副作用について

■献血時の採血は、献血される方の健康状態などを十分に確認した上で行いますが、時には気分不良、またごくまれには失神、神経損傷などの健康被害がおこることがあります。

平成 18 年度の健康被害発生状況



左の図は、平成 18 年度に発生した健康被害の内訳を示しています。もっとも発生頻度が多いのが、血管迷走神経反応 (VVR) というもので、気分が悪くなったり、吐気、立ちくらみ、冷汗が出たりします。しばらく横になっていると大抵は回復しますが、症状が重いと失神したり転倒することもあり注意が必要です。非常にまれですが、採血の針が神経を傷つけることがあります。太い神経を傷つくと直後に強い痛みが生じますが、細い神経だと献血終了後に痛みが強くなってくることがあります。

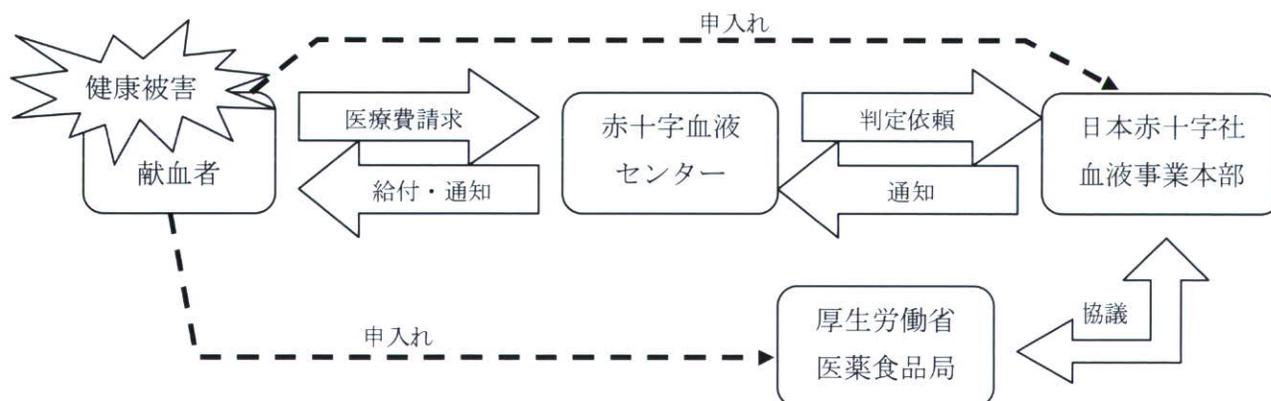
日本赤十字社はこれらの被害を防ぐために、献血前に「お願い！」の文書をお渡しして献血する方に注意を促しています。献血前、献血後の注意事項などが書かれているリーフレットですので、ぜひお読み下さい。

もし、腕の痛みや気分不良などがありましたら、できるだけ早く献血現場の職員や血液センターへご連絡をお願いします。

- ① VVR (軽症 : 69.0% ・ 重症 : 4.0%)
- ② 神経損傷 (1.0%) ③ 皮下出血 (21.0%)
- ④ クエン酸中毒 (1.0%) ⑤ その他 (4.0%)

■献血者健康被害救済制度

平成 18 年よりスタートしたこの制度は、献血する方々により安心して献血にご協力いただけるように制定されたものです。健康被害が生じた場合、治療に要した費用が支払われます。(詳しくは資料 p○○)



献血された血液の検査について

■血液型検査項目

- A B O 血液型検査
- R h 血液型検査
- 不規則抗体(A B O 型以外の血液型抗原に対する抗体)検査

■感染症検査項目（詳しくは資料 p○○）

- 梅毒血清学的検査
- B 型肝炎ウイルス検査（H B s 抗原・H B c 抗体検査）
- C 型肝炎ウイルス検査（H C V 抗体検査）
- エイズウイルス検査（H I V-1、2 抗体検査）
- ヒト T リンパ球向性ウイルス-1 型（H T L V-1）抗体検査
- ヒトパルボウイルス B 1 9 抗原検査

■核酸増幅検査（N A T）を実施している感染症検査項目（詳しくは資料 p○○）

- B 型肝炎ウイルス検査
- C 型肝炎ウイルス検査
- エイズウイルス検査

HIV検査のウィンドウ期について

検査目的の献血は輸血にとって大変危険です。エイズウイルス（HIV）に接触した場合、局所からウイルスが体内に侵入するまでに最大1ヶ月くらいかかることがあるといわれています。さらにHIVが血液中に侵入して増殖し、検査によって検出できるようになるまでに一定期間が必要です。HIVに接触してから検出されるようになるまでの期間を「ウィンドウ期」と呼んでいます。もし「ウィンドウ期」に献血されれば、その血液はHIVに感染しているにもかかわらず、検査で排除することができないので輸血感染を起こします。ウイルスが血液中出现してから検査で検出できるまでの長さは検査法によって異なります。抗体検査では約22日、ウイルス核酸増幅検査（NAT）では約11日ですが、現在日赤が実施しているNATは20本の検体を1本にまとめて検査していますので約13日と推定されます。現在の血液センターの検査システムは高感度のもので、それでも感染するような行為があつてから約43日間は検出できないことになります。もしこの期間に献血されますと、輸血にとって大変危険な事態が生じる恐れがあります。検査目的の献血は、HIVに感染したかどうか不安になって献血で感染の有無を確認しようとするものですから、まさに上記の危険な時期に献血する可能性が高いと思われるのです。もし輸血によって感染がおこればせつかくの善意の献血も台なしになってしまいます。

HIV感染とウイルスマーカー

